

福島第一1号機 非常用炉心冷却系(補機類も含む)一覧表  
(地震前、地震後、津波襲来後)

		設置場所	耐震 クラス	原子炉 自動停止時 (地震発生時)	原子炉自動停止 ～津波到達直前 まで	津波到達 以降	備 考	
冷 や す 機 能	E C C S	CS (A)	R/B地下階 (O. P. -1230)	A	○	○ 注1	×	津波後、電源・海水系 (CCSW) とも喪失
		CS (C)	R/B地下階 (O. P. -1230)	A	○	○ 注1	×	津波後、電源・海水系 (CCSW) とも喪失
		CCS (A)	R/B地下階 (O. P. -1230)	A	○	◎	×	津波前、手動起動(S/Cクーリング)で作動を確認 津波後、電源・海水系 (CCSW) とも喪失
		CCS (B)	R/B地下階 (O. P. -1230)	A	○	◎	×	津波前、手動起動(S/Cクーリング)で作動を確認 津波後、電源・海水系 (CCSW) とも喪失
		CCSW (A)	屋外 (O. P. 4000)	A	○	◎	×	津波前、手動起動(S/Cクーリング)で作動を確認 津波時、本体海水冠水し、かつ電源喪失
		CCSW (B)	屋外 (O. P. 4000)	A	○	◎	×	津波前、手動起動(S/Cクーリング)で作動を確認 津波時、本体海水冠水し、かつ電源喪失
		CS (B)	R/B地下階 (O. P. -1230)	A	○	○ 注1	×	津波後、電源・海水系 (CCSW) とも喪失
		CS (D)	R/B地下階 (O. P. -1230)	A	○	○ 注1	×	津波後、電源・海水系 (CCSW) とも喪失
		CCS (C)	R/B地下階 (O. P. -1230)	A	○	◎	×	津波前、手動起動(S/Cクーリング)で作動を確認 津波後、電源・海水系 (CCSW) とも喪失
		CCS (D)	R/B地下階 (O. P. -1230)	A	○	◎	×	津波前、手動起動(S/Cクーリング)で作動を確認 津波後、電源・海水系 (CCSW) とも喪失
		CCSW (C)	屋外 (O. P. 4000)	A	○	◎	×	津波前、手動起動(S/Cクーリング)で作動を確認 津波時、本体海水冠水し、かつ電源喪失
		CCSW (D)	屋外 (O. P. 4000)	A	○	◎	×	津波前、手動起動(S/Cクーリング)で作動を確認 津波時、本体海水冠水し、かつ電源喪失
		HPCI	R/B地下階 (O. P. -1230)	A	○	○ 注1	×	津波後、電源喪失 (補助油ポンプ)
		IC (A)	R/B4階 (O. P. 31000)	A	○	◎	(不明)	津波前、自動起動 (原子炉圧力高) で作動を確認 津波後、電源喪失により弁状態確認できず
		IC (B)	R/B4階 (O. P. 31000)	A	○	◎	(不明)	津波前、自動起動 (原子炉圧力高) で作動を確認 津波後、電源喪失により弁状態確認できず
炉 注 水	MUWC	T/B地下階 (O. P. 3200)	B	◎	◎	×	津波後、電源喪失	
プ ール 冷 却	SFP冷却 (FPC系)	R/B3階 (O. P. 25900)	B	◎	△ 注1	×	地震発生後、電源喪失。津波後、海水系 (SW) 喪失	
	SFP冷却 (SHC系)	R/B1階 (O. P. 10200)	A	○	○ 注1	×	津波後、電源喪失。津波後、海水系 (SW) 喪 失	
閉 じ 込 め る 機 能	格 納 施 設	原子炉建屋		A	◎ (機能あり)	◎ (機能あり)	×	原子炉自動停止後から津波まではSGTSが作動 し負圧が維持されたものとする。その後、 水素爆発により損傷
		原子炉格納 容器		A	◎ (機能あり)	◎ (機能あり)	×	津波到達前、格納容器圧力に破損を示す徴候 は認められず

(凡例) ◎ : 運転 ○ : 待機 △ : 通常電源断による停止 × : 機能喪失又は待機除外

注1 : 本震で比較的大きな揺れを観測した5号機では、地震発生後の平成23年3月19日に残留熱除去系を使用しており、当直員によるパトロールからも各系統・設備に大きな損傷は認められていない。  
また、これら機器が設置されている原子炉建屋地下階で今般得られた観測記録における最大加速度は、機器の動的機能維持確認済加速度を十分下回っている。  
このことから、各機能は概ね確保されていたものと推定される。  
※JEA C 4 6 0 1 - 2 0 0 8 「原子力発電所耐震設計技術規程」